

## なたまめ茶のタンパク質成分の分析

理学研究科 生命科学専攻 山内大輔



## キーワード

なたまめ茶、種子タンパク質、コンカナバリンA

## 研究概要

なたまめ(刀豆)の名称はその莢が鈍のような形状から名付けられました(左の写真下段)。その若い莢が福神漬けの材料として用いられる以外に、その種子は漢方薬としても用いられています。また、その種子を焙煎して、お茶として利用できますが、それがなたまめ茶です。アレルギー等に効果があることが知られており、一般にも販売されています。その種子には貯蔵タンパク質としてカナバリンとコンカナバリンA (ConA)が多量に含まれています。それらの種子タンパク質の研究をこれまでにこなしてきましたので、それらの抗体を活用して、なたまめ茶の成分を分析しました。市販のお茶の成分を調べた結果、カナバリンは検出できませんでしたが、ConAは検出されました。実際にお茶を作ってみて、その途中段階で分析を行うと、焙煎によってカナバリンは抽出されなくなることが推測されました。ConAは糖鎖に結合するレクチンですから、体内に取り込まれると、その活性によりアレルギーに効果があるのではないかと考えています。

## アピールポイント

なたまめの若い莢は食用が可能です。そして、その種子から作ったお茶にはアレルギーに効果があるとされています。

## 応用分野

植物の種子を用いた食品におけるタンパク質成分の分析



写真の説明: 上段、花。下段、莢。